

イメージを超える職業観

数ある職業から自分がなりたいもの、自分に適したものを見つけるためには、自己を掘り下げると同時に、世の中にはどのような職業があり、日々どのような仕事をしてどのような価値を生み出しているのかを知ることが不可欠です。

一方、SNSやインターネットでの情報収

集が当たり前になった現代では、職業に対しても一面的な情報から「知ったつもり」になりがちです。特に、まだ社会との接点が少ない高校生は、職業に対する漠然としたイメージや固定観念に縛られ、進路の選択肢を狭めてしまうこともあるでしょう。また、急速に社会が変化するなか、新しく生まれ

た職業や、従来とは仕事の内容や働き方が変わりつつある職業も出てきています。そこで今号では、職業に対する思い込みを外し、働くことや自分の進路に対して想像力を広げるにはどうすればいいのか、多角的にアプローチします。本特集の視点が、進路指導やキャリア教育の一助になれば幸いです。



私の仕事は、地方公務員(行政事務)です。

人と地域をつなげる



私の仕事は、農家です。

お客さんと家族が休みにつながる農家 地域を担うこと



私の仕事は、営業です。

地元の仲間の輪をひろげること



私の仕事は、看護師です。

自分で道を切り拓く看護師



私の仕事は、花屋です。

人と街をつなぐコミュニティ花屋

interview

社会人8人に聞く あなたの仕事は 何ですか？

公務員、看護師、農家…こういった職業名を聞いて、どのような仕事を想像しますか？「データサイエンティストってどういう仕事？」「エンジニアって何をやる人？」と生徒に尋ねられたら、どのように説明しますか？「仕事＝職業」ではないのではないか…という問いを起点に、一人ひとりをお話を伺ってみることに。すると、職業というカテゴリーではまとめ切れない、その人ならではの仕事が見えてきました。



私の仕事は、~~データサイエンティスト~~です。

今日より明日を良くすること



私の仕事は、鉄道作業員です。

人知れずあたりまえをつくること



私の仕事は、~~ソフトウェアエンジニア~~です。

パソコン1つで世界を創ること

← Go to next page